

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 12月 4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3670300296
法人名	有限会社 プレタ
事業所名	グループホーム ファミリーヒルズ
所在地	徳島県小松島市新見町東山下101-4 (電 話) 088-532-6517
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 11月 22日

## 【情報提供票より】(平成19年11月8日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 11人,非常勤 2人,常勤換算 カモミール5.5人 ラベンダー5.5人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1, 200円		

### (4)利用者の概要(11月8日現在)

利用者人数	18 名	男性	10 名	女性	8 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 74 歳	最低 73 歳	最高 103 歳		

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	ライフクリニック
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は田園地帯の小高い丘の中腹に位置し、裏山から小鳥の声が聞こえるなど自然に囲まれた環境のもと、広々とした居室やリビングでその人のペースに合わせたその人らしい生活が支援されている。特に食事面においては、海の幸や山の幸が豊富に入手でき、地産の食材を求めて職員は早朝より毎日出かけて新鮮な食材を調達し、入居者の献立に活かされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題の1つである個別具体的な介護計画は改善されていたが継続的な研修の受講については内部研修、協力医療機関の研修にとどまっている。また、家族への日常の様子に関する情報提供や職員の異動の報告などは一部の家族のみ報告されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対し、管理者は事業所のあり方に厳しい目で分析されている。管理者・職員は設立1年余りを振り返り課題を出し合い、一丸となって自己評価に取り組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は今年度は2回開催され、メンバーは利用者、利用者家族、市職員、地域代表者等で構成されている。会議の討議内容は、自己評価・外評評価の結果を提出し意見交換が図られている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>常に利用者、家族には相談・苦情を伝えてもらえるよう、コミュニケーションを大切にしながら接している。出された意見や苦情についてはありのままを受け止め、運営やサービスの向上に反映されるよう取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元のお祭りには利用者全員で参加されている。また地域の幼稚園・学校関係者とは連携を取りながらボランティアの場として事業所を提供している。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員で確認し、事業所として何が大切なのかを考えられた独自の理念を作られている。現在、コンサルタントの協力を得ながら具体的なイメージをもつ理念の見直し作成に取り組まれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は運営理念を理解しており、パートの職員も含め毎日のケアに理念が反映されるよう会議等で話し合い、確認をしながら実践に向け取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元のお祭りには、利用者全員が参加している。また、地域の幼稚園・小学校の子どもたちの訪問も受けている。中学校とは、ボランティア活動の場としてホームを定期的に提供しており、利用者との交流も図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解しており、よりよいサービスにつなげるよう、前回の外部評価改善項目についても検討をし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年6月・11月の2回開催されている。会議では事業所の報告と共に参加メンバーからの活発な意見を頂きサービスの質の向上に反映されている。会議の内容は記録されている。	○	2ヶ月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時より市担当者とは連携を密にとり、相談や助言を頂き、現在も常に連携できる関係が継続されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態を始め、利用者の暮らしぶりは個別に電話等で知らせており、家族の来所時にもきめ細かく報告がなされている。金銭については、使途・確認が納帳に明記され家族の確認印が捺印されている。職員の異動については報告するまでには至っていない。	○	職員の異動についても家族に報告されるよう取り組んでいかれたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・苦情に関しては、相談窓口が設定されており、利用者・家族から気軽に話が持てるよう常日頃から会話が出来る雰囲気づくりに気を配っている。出された意見・苦情はありのままを受け止めサービスの質の向上に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は利用者に不安を与えないよう業務内容・業務時間・勤務体制に配慮をしながら利用者のダメージを防ぐ事に最善の努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所は職員の研修には熱意を持って取り組んでいるが、勤務状態等により計画を立て実施するまでには至っていない。全職員が研修できるよう協力医療機関の支援を受け内部研修は実施されている。	○	年間研修計画を立て、全職員が段階的に研修・学習の機会を得る事ができるよう取り組んでいかれたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者同士の交流会は実施されているがネットワークづくりや勉強会、職員同士の交流する機会には十分には設けられていない。	○	管理者・職員同士がコミュニケーションを図り同業者との交流に取り組んでいかれたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	初期の段階で本人・家族とのコミュニケーションを図るため、何回も家を訪問したり、事業所に来て体験をする等、利用者が事業所になじめるよう家族との相談の上取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する人される人という一方的な関係でなく、日常の会話や雑談の時間を大切に人生の先輩である利用者から「教えてもらう」「助けてもらう」といった場面をつくり、共に支えあう関係作りに取り組まれている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の希望・意見には耳を傾け、利用者の表情から真意を確認し、利用者に寄り添い情報を得ながら思いや意向の把握に全職員で取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中から得た情報や家族の来所時において希望をうかがい、月1回開催されるカンファレンス時に職員同士が活発に意見を出し合い具体的な介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しがされており、利用者の状態に変化が見られた時には見直しがされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況や要望をふまえ、通院の付き添いなど、協力医との連携を図りながら柔軟な支援をしている。また、家族の泊まり等も考慮している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を重視し、かかりつけ医や他の医療機関への受診支援がされている。また、かかりつけ医との情報の交換は密に図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化や終末期に向けた方針は本人・家族に十分な説明がされ、同意を得ている。また、協力医療機関との協力で職員全員が「終末期ケア」の研修を受けており具体的な内容を話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう一人ひとりの言葉がけには特に注意をしている。個人情報の管理にも十分配慮がされており秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ見守りをし、その人らしい暮らしを尊重した、個別性のある支援を行っている。決められた場所で食後のタバコをおいしそうにゆっくりと味わうように吸っている利用者の姿も見られた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所は旬の食材や新鮮な材料を調達し、献立に工夫が見られる。利用者・職員が仲良くおしゃべりしながら一緒に食事をするなど、楽しい雰囲気が見られる。力の発揮できる場として片付けは利用者も一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの生活習慣、希望を大切にされた支援がされている。利用者には午前・午後のどちらかを選択してもらうこともあるが、ほとんど利用者の希望に応じた入浴支援がなされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者が毎日の生活を楽しめるよう洗濯物をたたんだり、食事の片付け等「できる」ことへの場面づくりがなされている。趣味や生活歴を反映され、楽しみごとや気晴らしも支援がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人のその日の様子をうかがいながら外に出る機会を積極的に持たれている。遠出の外出も事業所の車で利用者が買い物・ドライブ等揃って外出できることで心身の活性化につながるよう支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所は鍵をかけないケアの大切さを理解して努力はされているが、建物の構造上玄関の見通しが良くないため事故の心配もあることから現状は鍵がかけられている。	○	事業所全体で家族も含め見守りのあり方など検討され、鍵をかけない工夫をされたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策のマニュアルは作成されている。訓練は年2回実施されており、市消防署・警察署との連携も図られている。災害における備品の保管もされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事量摂取量・水分量摂取量の状況はその都度チェック表に記録し、全職員で共有されている。献立は協力医療機関の栄養士、医師よりアドバイスを受け、バランスのとれた食への支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の建物は全てバリアフリーである。リビングは広く、座り心地の良いソファや椅子が置かれ利用者は自由に過ごせるよう工夫がされている。また、季節感を採り入れた飾り付けがされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のプライバシーを大切に一人ひとりの居室には、使い慣れた家具を始め仏壇や机、鏡台等が持ち込まれ利用者が安心して過ごせるよう配慮されている。また、居室は日当たりが良く窓からはお布団が毎日干されている。		